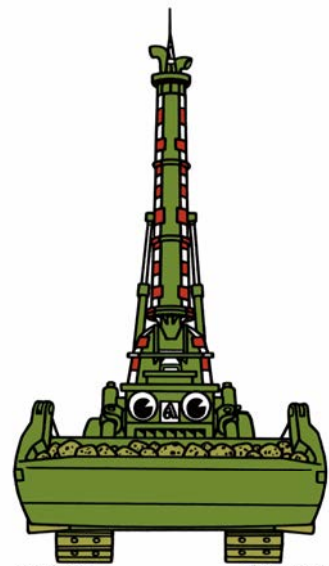


技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	<input checked="" type="radio"/> 安全・防災 <input type="radio"/> インフラDX <input type="radio"/> 維持管理 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> 品質 （該当分類に○を付記）		
技術名称	水陸両用ブルドーザ	担当部署	環境リニューアル事業部
NETIS登録番号	QS-220011-A	担当者	
社名等	青木あすなる建設株式会社	電話番号	03-5439-8511
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機		
	1968年(昭和43年)に、無線遠隔操縦式水陸両用ブルドーザは、国交省(旧建設省)指導のもと、(株)小松製作所により開発されました。1969年(昭和44年)「富山大橋橋脚沈下応急工事」で始めて投入され、この工事は後に「建設機械の遠隔操作」という点で「無人化施工」最初の工事と言われてます。当社は、17台当機を購入し、現在日本で唯一5台保有し、全国各地で稼働しています。2022年8月「ICT施工対応の水陸両用ブルドーザ工法」(QS-220011-A)としてNETIS登録しました。		
	2. 技術の内容		
	昭和46年以來1200件以上の実績を積み重ねてきた当社独自の工法です。陸上機械や作業船では施工困難な浅水域を作業領域とします。仮設を必要とせず、通年施工が可能で、省資源化、省人化を可能とする無線遠隔操縦式水中機械工法です。		
	3. 技術の効果		
水陸両用ブルドーザ工法は、浅水域や碎波帯において、仮設材を大幅に低減可能であり、経済性、工程面で従来工法に比べ優位です。また、無線遠隔操縦式なので人命の安全を確保することができます。			
4. 技術の適用範囲			
・トラフィカビリティ：砂質土でN値5～7程度以上を目安 ・作業限界流速：水深3m程度で2.5m/秒程度 ・作業限界波高：有義波高1.0m程度 ・作業限界制御距離：見通可能な条件で100m以内(電波法制限範囲)			
5. 活用実績			
国の機関 70件（九州 5件、九州以外 65件） 自治体 1036件（九州 48件、九州以外 988件） 民間 68件（九州 4件、九州以外 64件）			

6. 写真・図・表



スイブルくん

©こもりまこと